

「にいに」と呼ばれて

石塚 泰明
いしづか やすあき

「にいに、ジャンケンしよう。」

「さいしよはグー、ジャンケンポイ。」

「ポイ。」

「あつ。」

「やった。ぼくの勝ち。にいにの負け。」

弟のしょうちゃんは、いつもそうだ。ぼくとジャンケンするとき、おそ出しする。そして、自分が勝つたと家族みんなにじまんする。ぼくが負けたんじゃないんだぞ。おそ出ししても何も言わないで、負けてあげたんだぞ。

「にいに、たたかいごっこしよう。」

ぼくが勉強していると、しょうちゃんがさそってくる。

「しょうがないな。」

と、たたかいごっこを始める。

「ママ、にいにがいじめた。」

ちよつと当たり所が悪かっただけじゃないか。またぼくがしかられるよ。

「にいに、手つないで。」

しょうちゃんと二人きりでねるとき、しょうちゃんはおねだりしてくる。そのときの顔はとつてもさびしそうだ。ぼくは顔を近づけて、そつと手をにぎる。その手はちつちやくて、プニユプニユしている。だから、そつとそつとにぎる。すると、しょうちゃんはニッコリして安心した顔になる。いつの間

か、しょうちゃんもぼくもゆめの中にもぐりこむ。ぼく一人でねると、お化けが出そうで、こわくてねむれないのに。しょうちゃんの手は、ふしぎだね。

「にいに、ただいま。」

ぼくが学校から帰つてくると、そう言ってくれるね。ぼくが学校から帰つてきたんだから、「ただいま」はぼくのセリフだよ。最近帰つてきたら「ただいま」なのか「おかえり」なのかごちゃごちゃになつてきた。でも、その言葉を聞くと、かわいいなと思うんだ。学校で何があつても、ぼくを元気づけてくれるね。

「ねえ、にいに。」

しょうちゃんは、ぼくのことを「にいに」とよぶ。ぼくは、その呼ばれ方が好きなんだ。うれしんだ。やさしい声で呼ばれると、ジュースだつておかしいだつて、ぼくの分まであげたくなつちゃうんだ。だから、たたかいごっこだつてしちゃうんだ。最後は、弟を泣かせたつてしかられるけどね。

ぼくは、しょうちゃんが弟でいてくれて、ほんとうにうれしいよ。これからも「にいに」と呼んでね。自転車もとびばこもなわとびもぼくが教えるよ。こまつていたら、すぐにとんでいくからね。しょうちゃん、ありがとう。